

『桃山学院大学学生論集』第32号の発刊によせて

学長 牧 野 丹奈子

学生懸賞論文、学生研究発表大会の入賞者の皆さん、おめでとうございます。同時に今回の学生懸賞論文に応募された40名、および学生研究発表大会に参加された33の個人・グループの全ての方々へ心より敬意を表します。

『学生論集』は今号で復刊第32号ですが、その前身となった『経済学論集別巻学生論集』（1966年発刊）から数えると通算第45号となります。一方、学生研究発表大会の規模は年々大きくなっており、予選と本選の二段階審査方式をとるようになって4年目になります。今年度も昨年度に引き続き学外からの審査員として、大学教育後援会の竹井源五会長、大学同窓会の藤田茂副会長にお越しいただきました。改めて御礼申し上げます。

学部別に応募状況を見てみますと、学生懸賞論文では経済12編、社会19編、経営2編、国際教養7編、法0編でした。学生研究発表大会では経済・社会・経営の3学部から参加がありました。

次に、審査結果についてです。学生懸賞論文では、残念ながら学長特別賞、優秀作および佳作の該当はなく、準佳作2編のみという結果でした。学生研究発表大会については、最優秀賞1グループ、優秀賞1グループ、佳作5グループ・個人、準佳作8グループとなりました。ただし、選外になった作品の中にもオリジナリティ溢れる学生らしい論文・発表が多かったと聞いております。

今年度の学生懸賞論文、学生研究発表大会のテーマを見てみますと、地方自治体の経済問題、高齢者や児童に関する福祉問題、ごみに関する環境問題、イギリスのEU離脱、カジノ建設やゲーム市場といったような今日の社会情勢を強く反映したテーマが多く見られました。このことから、社会に対する問題意識を深める機会として、この学生懸賞論文と学生研究発表大会

が大きな役割を担っていることが再確認できます。特に、学生研究発表大会については、学生が実行委員会を組織し、基本的に学生による自主的な運営を尊重しております。本学では、今後も、勉学面はもちろん、多様な面において学生のやる気を支援していきたいと考えています。

最後になりましたが、学生懸賞論文、学生研究発表大会の準備、運営にご尽力された教員ならびに職員の方々に、感謝の言葉を申し上げます。